

＜先週の説教から＞

『詩編 44 - 私が依り頼むのは

自分の弓ではない』

武田真治牧師

詩編 44:1-27 ローマの手紙 8:33-39

毎月末には詩編を読み進めています。詩編の中には様々なタイプがあります。内容的に最も多いタイプは《信仰者個人の苦難の祈り》です。神様への問い掛けと叫びのような祈りが述べられていく詩編で、その後半には神様への信頼や信仰の告白で閉じられる詩編も多くあります。ただ、もうひとつ、数は少ないですが、同じ苦難からの祈りでも《民族の苦難の祈り》もあります。実は今日の詩編44編がまさにこのタイプで、私たちは初めて出会う詩編なのです(他には74編や79編など)。ただし、この＜民族の苦難の祈り＞は神様への厳しい叫びに終始するものになっていますから、読むのが辛くなる詩編でもありますし、特にこの44編は厳しい叫びで終わっています。

先ず1～4節は「先祖が我らに語り伝えたこと」として、これまでのイスラエルの歴史、特に神様が民を不思議な御業をたくさん起こして力強く導いて来てくださったことを回顧しています。それは自分たちの民族が素晴らしかったからではなく「あなたの御顔の光によるもの」であったと。まさに5節「神よ、あなたこそわたしの王」であり、「自分の弓や自分の剣に」頼らず生きて行こうと。見事な信仰告白になっています。

ところが、次の9節からは「しかし、あなたは我らを見放されました」と、神様への信頼のみに生きてきたのに民族全体に困難な状況が降りかかっていると。それは「我らを食い尽くされる羊として国々の中に散らされました」とありますように、バビロニアによるエルサレムの破壊と奴隷としてバビロンに連行された出来事、国が無くなり人々は他国へと逃げ延びざるを得ない状態となっていたのでした。故に「なぜ、御顔を隠しておられるのですか。眠っておられるのですか。立ち上がって、

我らをお助けください」と神様へ救いを求めると叫びと嘆きとなり、そしてそのままこの詩編は終わっていきます。

どうでしょうか？ 叫びで終わることは旧約の信仰の結末とも言えます。なぜなら、この民族出身でその環境で生きてきた伝道者パウロが、この詩編の言葉を、ローマ書8章で引用していますが、そこでも彼はユダヤ教徒からキリスト教徒に改宗しても依然として「わたしたちは、あなた(=神様)のために死にさらされている」と述べています。しかし、だからと言って『どうしてですか?』と叫ぶのではなく、むしろ「わたしたちを愛してくださる方(=イエス様)によって輝かしい勝利を収めています」と自分に注がれている“愛”をととても身近に感じているのです。それこそイエス様が来てくださった“恵み”でしょう。ここにキリスト教信仰の素晴らしさがありますね!

【今週の集会】

*聖書研究・祈祷会 I. 7月10日(水) 20:00
II. 7月11日(木) 10:30

聖書: ハイデルベルク信仰問答
祈祷主題: 壮年会を覚えて
担当者: (水) 齊藤 (木) 保坂
祈りに覚える人: 岩井さん 岩井さん

【教勢報告】

主日礼拝 男21 女52 計73
祈祷会 I. 男5 女1 計6 II. 男1 女9 計10
日曜学校 幼稚科4 小中科10 計14

【次週主日礼拝】 7月14日(日)

聖書: イザヤ書 55:1~7
ヨハネによる福音書 4:7~15
説教: 「創立記念礼拝—わたしのもとの来なさい」
飯田 仰 牧師(日本同盟基督教団)

讃美歌: 16(1)、32、400(聖歌隊)、432、
516、91(1)

【次週当番表】

司式: 武田真治牧師 奏楽: 羽倉 礼拝: 齋藤長老
献金: 三箇 鹿野 受付: 鈴木 橋本
会堂準備: 飯島 岡本 金刺 中村
森本

看板: 岩佐 週報: 金刺 お花: 茂木

【次週集会予定】

礼拝前: ・求道者会 ・聖書輪読会
礼拝後: ・愛餐会
・青年修養会(関東改長協主催) 15:00~

週報

2024年度 教会標語

「主につながり、その枝としてひろげて」

2024年 7月 7日

日本キリスト教団 上尾合同教会
牧師 武田 真治

〒362-0041 上尾市富士見2-3-33
TEL&FAX 048-771-6549
<http://www.ageo-church.org/>